

会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称 令和元年度第3回美里町生活支援体制整備協議会
 - 2 開催日時 令和元年12月19日(木)午前10時から午前11時56分まで
 - 3 開催場所 駅東地域交流センター 大会議室
 - 4 会議に出席した者
 - (1) 委員 小野俊次会長、佐藤美佳副会長、伊藤秀司委員、角田フミ子委員、
 - (2) 事務局 横山太一、伊藤博人
永沼威雄、高橋ゆかり、田村紗希
 - 5 会議の公開・非公開の別
公開
 - 6 傍聴人の人数
0人
 - 7 会議の概要
 - 報告事項
 - (1) ぐらしのサポーター養成講座について
 - (2) 第2回美里町介護サービス事業所連絡会について
 - (3) 生活支援コーディネーターの活動について(10~12月)
 - (4) 生活支援体制整備事業啓発パンフレットについて
 - (5) 前回の振り返り
 - 協議事項
 - (1) 生活支援のしくみの検討について
 - (2) 生活支援体制整備協議会啓発事業について
- 署名委員
小野俊次会長、佐藤美佳副会長

(2) 協議事項における詳細な意見

高橋	<p>これより令和元年度第3回美里町生活支援体制整備協議会を開会します。</p> <p>開会のあいさつを小野会長からお願いいたします。</p>
小野会長	<p>皆さん、おはようございます。忙しいところお集まりいただきありがとうございます。</p> <p>少ない人数での会議なので、ざっくばらんに話したいことを話しながら会を進めていければと思います。よろしく申し上げます。</p>
	<p>署名委員については出席委員全員が事務局に一任するというところで、小野俊次会長、佐藤美佳副会長に決定した。</p>
高橋	<p>続いて3. 報告に入ります。</p> <p>(1) ぐらしのサポーター養成講座について、事務局の田村より報告いたします。</p>
田村	<p>では私からは、ぐらしのサポーター養成講座を今年度初めて開催しましたので御報告させていただきたいと思います。</p> <p>資料1ページに要綱が載っておりますけれど、これまで社会福祉協議会ではサロンサポーター養成講座という名前で昨年まで11年間講座を開催してきました。これは地域の中のサロン、お茶っこ飲み会を中心にその中で例えばリーダー的な役割を果たしていただいたり、人と人とを繋ぐキーパーソンになっていただけるような人材の養成を目的としてやってきたのですけれど、この協議会がスタートしたこともあり、今年度はサロンだけではなく視野を広げ、ぐらしのあらゆる場面で困っているのだけれどといった声を聞いたり受け止めて地域の人たちと一緒に解決に向けて考えていけるような地域リーダーの養成をしていければということで初めて実施するものであります。定員40人いっぱいの参加者に来ていただいて、行政区長さんや民生委員さんにも来ていただきました。6回シリーズで進め40人中34人の方を暮らしのサポーターとして認定させていただきました。</p> <p>4ページを御覧いただきたいと思います。その中で受講後にアンケートをとらせていただきました。5ページで受講した方に住民参加型生活支援サービス、この協議会でも検討いただいているサービスの必要性について質問したところ、必要との回答が9割になりました。更に、もしサービスができた場合、協力者として活動してみたいかという質問では7割強の方が是非協力したいという声をいただきました。講座の中でも大河原のNPO法人が実践されている住民参加型サービスの立ち上げについてのお話で、住民感情としても感心が高いのだな</p>

	<p>と思いました。</p> <p>何故、これが必要かと思うのかというところなのですが、3ページの片袖折の資料を見ていただくと講座の中で支え合いについてのグループワークにおいて受講生の皆さんと話したのですが、一番右側、これから必要な支え合いと書いてある中で、やはり住民参加型のサービスは必要であり、ただ身近な範囲でできる支え合いは既にあり、例えば話し相手だったり、ちょっとした物のお裾分けだったり、物々交換だったり、そういった身近な支え合いは今もすごくあるのだけど、大変なところとしては病院などへの送迎や買い物とか、雪かきだったり、家事の手伝いなどというところは、その枠には収まりきらないところがあるので、そのような部分でサービスがあったらいいなという声が受講した方々の中に多かったと思いました。</p> <p>以上、報告でした。</p>
高橋	委員さん方から何か御意見や御質問ございますか。
小野会長	先日、柴田町に視察に行った際に感じたのは、かなり大変なことではあるが良いことであると思ったことです。様々な問題を1つひとつ解決していくのも様々な問題があると思いますが、仕組みを立ち上げるためにも多くの問題があります。サポーターだけでは運営は成り立ちません。今後の大きな問題であると感じたところです。
伊藤委員	家事援助に関してはシルバー人材センターでも最近実施しているところです。炊事、洗濯、買い物とあらゆることを援助しておりますが、他の人の家庭内に入って色々なことを行うというのは非常に難しい面もあるのですが、とにかく援助しないと高齢者自身の生活が上手くいかないということで行ったところです。
佐藤副会長	講座の参加者の男女の比率はどれくらいだったのですか。
田村	<p>8対2で女性が8割でした。しかし、これまで社会福祉協議会で講座等を開催した際は男性が1割いるかどうかという状況が多かったので今回は男性が多かったという印象でした。年齢層は概ね70歳代といった感じでした。</p> <p>既に地域で活躍している方も多かったですし、これからそのような事を考えていきたいとといった動機の方もいらっしゃいました。</p>
小野会長	若い人がもう少しいいれば良いのですがね。
高橋	続いて(2)第2回美里町介護サービス事業所連絡会について、報告いたします。
横山	「お元気ですか」の第9号がお手元にあるかと思います。最後のペ

ージに美里町介護サービス事業所連絡会の記事が掲載されておりますが、それについて御報告いたします。

10月30日に駅東地域交流センターにおいて美里町の高齢者及び障がい者向けの介護サービス事業所の職員や、町内のケースに関わっている町内をはじめ大崎市などのケアマネジャーを対象として開催したところです。

テーマとしては住民の方を支えていく際に、様々なサービスの種類、提供主体や手法など、どのようなものが美里町に合うのかということを考えてみようということで参加者に話をさせていただきました。

始めに講師先生から住民の暮らしを支える地域資源についてお話いただきました。資料の10ページから12ページを御覧ください。ページ毎グループでまとめておりますが、家事や安心のためのサービス、外出や移動のためのサービスをどのような担い手が行っているのかということに記載しております。町や民間、NPO、あとは地域住民の方がやってくれている部分というのをみんなで一緒に考える機会としたところです。

やはり皆さん色々なことを知っていてケアマネジャーをはじめ出していた意見についても資料でまとめております。これらの資料は当日の参加者にも渡すことができればよいなと考えていたところです。

基本的に事業所の方は困っている方に関わっているのですが、なかなか困り事を解決するためのサービスは、介護保険のヘルパーだとか有名なものはわかっているものの、身近にある民間の業者がやってくれるものなどはわからないという声もあったり、あとはグループワークで他の方が知っている情報というのを聞いてとても参考になったとか、色々な資源が美里町にはあって様々な支え方で住民の方にサポートしていくことができるということが理解できたということがあったかと思えます。

我々もケアマネジャーや介護サービス事業所で従事されている方々は身近な支え手なので、この方々が更に色々なことや様々な資源をわかってくれることは、より困っている方を支えやすくできる地域になるのかなと思っているので、反響が大きかったこともあり来年はグループワークにもう少し時間を割けるよう考えてみて情報共有できて、結果的に住みやすい美里町になればと思っていました。

以上です。

高橋

委員さん方から何か御意見や御質問ございますか。

佐藤副会長	<p>うちのケアマネジャーも参加させていただいて感銘を受けて帰ってきておりました。自分たちが関わって介護サービスを利用者さんに受けていただくことで地域とのつながりが逆に希薄になってしまうこともあるので、そうならないように意識していかなければならないと強く感じてきたとのことでした。</p>
角田委員	<p>公のサービスだけを重視してしまうと地域とのつながりが確実に切れてしまいます。</p> <p>民生委員の立場として、これまで深く関わってきてもケアマネジャーが入ってきた時点で、我々のすることはなくなる。これまで関わってきた役割がケアマネジャーに移ることになる。安心感があり我々地域の負担感は減ります。ただし、デイサービスに行くにしてもどこの事業所に行っているのか、施設に入所した際にどこに行ったのか、これはケアマネジャーと御家族と町とのやり取りだけで、地域の我々が知ることができないので、民生委員として地域の皆さんから聞かれることがあっても、わからないとしか言いようがない。漠然とした噂レベルの情報しかわからない。だから、良い部分もあるのですが地域と今までお茶っこ飲みをしていたご近所のお年寄りどうしがデイサービスに行くことによって、いつ自宅にいいのかわからなくなり、関係が希薄になってしまう。</p>
小野会長	<p>例えば民生委員がそれをわかったとしたら立場としてはどうなのですか。</p>
角田委員	<p>デイサービスを利用したとしても在宅の日もあるわけですからまだ情報としては知りうることはできますが、施設の場合はどうしてもないです。連絡をとっても個人情報となるので施設にいるかどうかも教えてもらうことはできない。難しいことです。</p>
高橋	<p>ケアマネジャーが地域との橋渡しをするなどの工夫をしてもらうなど地域へ目を向けてもらえるとよいのですが。</p>
横山	<p>連絡会の際の講師も話していたのですが、やはりサービスが入ることによって住民の方とのつながりが切れてしまうということが本当は一番駄目なことであって、今までのつながりから移るのではなくてプラスといった形で今までのつながりが切れないように、例えばデイサービスの曜日にしても近所の方とお茶のみがある曜日以外の日にしてケアマネジャーが民生委員などに家にいる曜日を伝えて様子を見に行ってもらおうようお願いするとか、そのような形でやっていけるといいですよねといった話は出されておりました。</p> <p>あとは私も最近意識するようになったのですが認知症の方で一人暮</p>

	<p>らしの方ですと特にケアマネジャーと民生委員がつながるように私から民生委員の連絡先を教えて状況を伝えてもらうなどといったことを心がけるようにしております。サービスの利用を開始したから、ケアマネジャーがついたから地域との関わりはなしねといったことはしないようにしております。</p>
角田委員	<p>以前は介護サービスを利用するときに民生委員も関わっておりました。最近、全ての手続きについては御家族のみとなってしまいました。</p> <p>特に一人暮らしの方のお子さんなどの御家族であると民生委員や近所の方がどの程度関わっていたのか、隣近所の誰がお茶のみに来ていたのか把握していないのですよ。ケアマネジャーから本人の様子がおかしい場合、家族への連絡はするのですが以降はない。他の市町村に暮らしている若い世代の方ですと地縁の重要性を把握していないから、情報がない。今まで行っていた近所の方が逆に孤立してしまうこととなります。櫛の歯が欠けるように自分の周りの方が何の情報もいまま施設入所などでいなくなってしまう、それが新たな孤立を生んでいる状況です。</p>
小野会長	<p>家族の方も施設に入ると、まかせっきりでですからね。</p>
横山	<p>もちろん面会とかには行かれます。施設の中には地域の方と御本人さんで連絡を取れるようにしたりして、施設に入った後にも施設にご友人が会いに行けるようにしているところもあります。</p> <p>施設に入所したからといって、元々いた地域と分断されてしまうというのは本人も辛いでしょうから、そういった御本人さんとか御家族とか施設のほうで問題がなければ面会して駄目ということはもちろんないので、もともとの友人も施設を訪れるようにできるとより良いのかなという気はします。</p>
小野会長	<p>施設は受け入れてくれるのですか。</p>
横山	<p>そこは多分施設によっていろいろとあるかもしれませんが、基本的に外部の方が入って困るというのはあまり聞きません。</p>
角田委員	<p>でもそのことはあまり周知されてはいないですね。一般的には知人が施設に入ってしまったら行ってはいけないと思ってしまう。</p>
横山	<p>施設も周辺地域との接点が少ないといった悩みも抱えていて、その結果、施設も自ら閉鎖的な状況となってしまうところがあるらしいです。</p>
角田委員	<p>施設に入った方の次の情報を聞くのが、亡くなったそうだよということになっている。</p>
横山	<p>つながりの継続は大事なことだと思います。</p>

高橋	この連絡会を通じて専門職の方々も手を広げられるようになっていくと良いですね。
横山	今後の研修を通して、更に皆さんの意識が高くなっていくと良いと思いました。
佐藤副会長	<p>やはりケースに関わる際に、その方の生活歴というのを熟知しないと地域との関わりが切れてしまいます。限界があるにしてもやはりそこは意識していかないといけないと思います。</p> <p>うちの父も独り暮らしをしていて秋口からサービス付き高齢者住宅に入居したのですが、独り暮らしだったことから家も空き家となってしまうし春先に体調を崩して退院後すぐに入居したことから、お見舞いのお返しも自分で行けませんでしたし地域の方と疎遠になってしまいました。家族として地域の関わりが無かったなど、今日のこれまでの話を聞いてはっと思ったところです。</p> <p>少しでも本人のやる気を維持するため、毎年手書きで年賀状を作成していたことから、本人に書くように話していたところなのですが、私が補足して現在の所在や施設に顔を出してくださいねといったことを書き足せばよいのだと思いました。</p>
角田委員	<p>皆さん歳をとっているので耳が遠く、電話で連絡を取り合うということができない。やはり顔を見て話さなければならない。</p> <p>私も民生委員として高齢者の方を訪問しても呼び鈴を鳴らしても気付いてもらえないので、茶の間や縁側の窓をノックして顔を見せるようにしております。</p>
高橋	専門職もですが家族というか皆が、つながりを意識していくということが大事なのですね。
佐藤副会長	今まで積み上げてきた本人らしい生活が無くなってしまうのは寂しいです。
角田委員	<p>施設も御家族が頻繁に来てくださる方もいれば全く来ない方もいるので、施設に入れたから終わりではないのだよと御家族に言いたいです。</p> <p>敬老会や夏祭りなどのイベントがあれば施設では御家族にも声掛けするのですが、そのような機会にちゃんと来る家族と全然来ない人と別れるのでやはり地域だけではなくて家族もつながりというものを大事にしてほしいと思います。</p>
小野会長	うちの近所の施設などは10人が生活しているのですが行事などがある際は私も地域の民生委員と顔を出すようにしているのですが、施設の運営委員会などでも家族の代表の方がいて他の家族が顔を出し

	<p>てもらえるようにと、例えば施設の利用料を振込ではなくて現金で届けてもらうようにしたり、行事の際には家族を全員呼んでと工夫をして、現在はだいぶ顔を出してもらえるようになりました。先日の秋の祭なども家族が多く来て賑わいました。</p> <p>地域の人もある程度そのような場に顔を出していく必要はあるかと思えます。つくづくつながりというものは大事であると思えます。</p>
角田委員	<p>家族のつながり、地域のつながり、公的な場所とのつながり全てが繋がっていくことが大事です。</p>
小野会長	<p>施設の行事に地域の人に参加すると入所者だけでなく、その御家族ともつながることができると思えます。</p>
高橋	<p>続いて(3)生活支援コーディネーターの活動について10月から12月の内容について報告いたします。</p> <p>19ページから21ページまでに活動日誌を載せております。10月にはサロンに1回も行けてなかったことが反省点でした。今回この3か月にわたり老人クラブに対し社会福祉協議会の事業である地域福祉笑楽校という出前講座でお邪魔し、つながりができたなと感じました。また、訪問先で他の活動について情報をお聞きし、今後はそこで聞いた活動に顔を出してみたいなと考えております。</p> <p>今年度は情報交換会を3地区で実施しているのですが、地域の方から様々な活動について教えていただいたので、そこにも行ってみたいなと思っております。</p> <p>活動の報告は以上です。</p> <p>このまま(4)生活支援体制整備事業啓発パンフレットについて御報告いたします。</p> <p>2回目の協議会の際に案をお示したところですが、その完成したものを資料として添付しております。体制整備事業の説明とコーディネーターの活動内容などについて紹介しております。今後、これを使用して様々なところにお邪魔した際に、自己紹介がてら周知していきたいなと思っております。支え合いの地域づくりについて啓発していきたいと思えます。</p> <p>続いて(5)前回の振り返りに入りたいと思えます。</p> <p>資料が22ページになります。前回、美里町の現状とこれからの美里町について皆さんにお話いただきました。</p> <p>美里町の現状については横山より御説明申し上げ、要支援認定の方々が美里町では比率が高いことと、人材不足の関係から要支援のような介護度の低い方たちへのサービスの手が行き届いていない現状が</p>

	<p>あるということ、一人暮らしの増加によってちょっとした困りごとがあり、生活支援を必要としている高齢者が多いことについて皆さんで共有したところです。それらの課題に向けて生活支援の仕組みが必要だよねということを皆さんよりお話しいただいたところです。</p> <p>今後はこの生活支援の仕組みの検討と協力者の人材養成、ニーズの把握などについて話をしていこうということになりました。</p> <p>資料の(2)のところでは生活支援の捉え方について皆さんと共有いたしました。生活支援は制度の法的なサービスと制度外で行う生活支援のサービス、地域での支え合い、(4)のところでは日常的な助け合いや支え合いがあるという事を皆さんで共有をいたしました。</p> <p>協議会としては、今後、 から を強化していく必要があると確認しました。(3)については生活支援事業のパンフレット案を提示しまして御意見をいただいたところです。</p> <p>以上になります。何か皆さん方から御意見等ございますか。</p>
	意見等なし
高橋	<p>続いて4.協議事項に入っていきたいと思います。</p> <p>ここからは進行を小野会長にお願いいたします。</p>
小野会長	<p>本日の協議事項2つありますけど(1)生活支援のしくみの検討について事務局より説明お願いいたします。</p>
高橋	<p>生活支援のしくみの検討というところで、最初に話題提供というが先ほど介護サービス事業所連絡会の報告を横山から申し上げましたが、私もその会議に出席してグループワークに参加したのですが、その時に町内のケアマネジャーと同じグループになりつながりができたのですが、そのケアマネジャーから連絡がきて利用者さんの家族から連絡があり介護保険のサービスだけではなくて、ちょっとした困りごとがあった際、例えば介護者が病院にいかねばならなくなった際に対象者を見ていてくれる誰かがいると、すごく助かると思うのですが、そのようなことが仕組みとして仲間で何かできたらいいなとケアマネジャーに話されたそうです。ケアマネジャーはふと私を思い出してくださったとのことで連絡をいただいて直接お話しを聞いてみてもらえないかと説明されました。それでその方と一度話してみた経緯があります。やはりそういった仕組みが必要だよね、自分も利用したいし、自分も協力できることであれば協力もしたいということでお話しをいただきました。2年ほど前に美里町に引っ越してきたということで、まだ仲間というか同じ同士の方がなかなかいないということだったので、暮らしのサポーター養成講座でつながりもできるのではないかと</p>

	<p>思い来年の受講を勧めたところでした。</p> <p>養成講座や事業所連絡会のアンケートからも見えるように美里町では何らかの仕組みが必要なんだなと感じているところでした。</p> <p>今年度、柴田町を視察して社会福祉協議会が行っている仕組みについて教えていただきました。そうした社会福祉協議会が事務局になっているパターンだったり、美里町でも既に牛飼3区の山の神ボランティアが実施している移送のパターンと色々なパターンが考えられるんだなということがわかってきました。</p> <p>24ページから厚生労働省の資料になるのですが仕組みとして実施しているものがたくさんあります。老人クラブが主体となっていて行っているものだったり、自治会が主体となって団地の空き店舗を活用して住民主体の支え合いのサービスを実施していたり社会福祉協議会だったり生活クラブとちょっとした生活の困り事を支援していたり、他には民間企業が地域貢献事業の一環として買物代行や掃除、付き添いなどの生活支援を実施していることがわかりました。</p> <p>28ページでは民間企業の方々が今後の支え合いについて話したり協議を行う場を設けていたり、29ページでは住民のサロンや生活支援を行っているボランティアなどを紹介しております。</p> <p>このような感じで様々な形が考えられる中で、美里町はこれからのような形が一番馴染むのかということを進めていきたいなとは思っているのですが、何よりもこちらから型にはめてこれでやりますという、そこからなかなか波及していかないと思うのです。</p> <p>ですから地域の人から何か仕組みをやってみたいという声が上がってきてほしいと思っておりまして。その声を上げてもらうためには何をどのように働きかけていけばよいのかと考えていて、各委員さん方からもご意見をいただきたいと思っております。</p>
小野会長	<p>今の提案について大体は理解できるのですが、難しい問題でもあり色々な考え方もあるので美里町としてこのようなことをしてほしいといった、実際に美里町ならといったらこれといった何かに絞らなければ何でも手を付けると、色々な期間でやっている既存のサービスと何ら変わりがないものになってしまう。美里町ならではの、漠然としたものではなく本当に求めているものは何だろうかというポイントを絞った方がよろしいかと思いますがどうでしょう。広く聞かれても答えるのが難しい。</p>
角田委員	<p>高齢者のおかれている状況にもよって、一人暮らし、高齢者夫婦2人で暮らしている場合と、例えば息子と80歳代の母親とか、それぞ</p>

	<p>れが違う状況で問題が生じています。</p> <p>はっきりとわかりやすいのは一人暮らしという場合ですと今の時期ですと灯油を入れてほしいとか、雪かきとか、買い物に行けないので配達してほしいとか、全部違ってニーズがそれぞれあって、状況が違ってくるので、まずどのような状況の方を中心にターゲットを絞ることが必要かと思います。一人暮らしと高齢者世帯に限るとか、高齢者だって今は65歳以上が高齢者と言われておりますが70代前半でも元気な方もおりますしサークル活動している方もおりますし、年齢を区切って、その方たちに必要となるものを把握して、どのような手段でやっていくのか。私が一番思い浮かぶのは買い物などはお店とかの支援があるでしょうし、また雪かきやゴミ出しは自治会の組織というものがありますので、そこからサービスというか助け合いの部分を発展して意識付けていってもらっていただきたいと思います、現在、実際に行われている地域もあります。</p> <p>全体で組織を作るとなるとボランティアとして参加する場合は行動する方の強い思いがないと組織を作って運営していくのは難しいし、社会福祉協議会だって人材とか集めて組織を作っていくのは難しいですよ。</p>
高橋	<p>思っているのは町域で1つの大きなものを作ろうというわけではなくて地域の人たちでの支え合いを強めていきたいのです。</p> <p>社会福祉協議会が中心となって行っている柴田町もあるのですが、何らかの地域の事業があって中心が社会福祉協議会となっていると思うのです。</p> <p>美里町としては、社会福祉協議会が全域をやります、カバーしますというわけではなく、地域の人たちで行ってほしいという思いがあります。</p>
角田委員	<p>その主体はボランティアでもいいし、自治会でもいいしという、地域に合わせて作ってほしいという希望があるということですか。</p>
佐藤副会長	<p>例えば自治会に少しプラスアルファということですね。</p>
横山	<p>なかなか大きな取組というものは難しいですし、例えば自治会の方とか老人クラブとか本当に顔を見慣れた仲間たちというところの繋がりをベースにしながら、例えば自治会でこのような課題をクリアしたいというところに、その声から地域が仕組まていかにしても何らかの取組を考えていくみたいな、事例でもそのようなことがあるみたいなのですが、そのような形で地域の繋がりが強くなったり支え合ったりできればいいのかなという気はします。</p>

小野会長	まず困っている人がどこに相談したらよいのかわからないという点があると思います。
高橋	今、角田委員は民生委員として地域の方から相談が上がった場合、どこにつながりますか。
角田委員	現実に歩けなくなった方がいて、1人で生活を送るのは大変であることから包括にも入っていただいたのですが、ゴミ出しなどの相談があったので、それは自治会のほうに持って行って玄関の前にゴミをまとめておいてもらえば持って行ってもらえるよう自治会から近所の方に既に行っていた見守りも含めてやってもらえるように調整したことがあります。
小野会長	<p>うちでは4～5人のグループを作って常に隣近所を意識して生活しようと決めて暮らしています。例えば避難訓練でもそのグループで動きますし、何かあったら民生委員なりに連絡をもらうようにしております。</p> <p>自治会でできることは社会福祉協議会等に頼るのではなく自分たちでやらなければならないと思います。</p>
角田委員	<p>隣近所の付き合いが深い人は上手くやりくりしていますし、繋がりがある人は問題ない。</p> <p>独り暮らしで認知症になった方の何人かに関わったことがあるのですが、最終的には町に繋いだりケアマネジャーに関わってもらい、認知症がひどくなれば家族と相談の上で最後は施設に入ったケースとか経験しております。</p> <p>私や行政区長ができることというのは一定の間隔で顔を出すとか声をかけてみるとか隣近所の方から様子を聞くくらいしかできません。</p>
小野会長	大きくはこれまで地域福祉力UP情報交換会でずいぶん出ております。あれをもう少し強化できないものかなと。昨年はテーマを絞って行いましたが、そのように焦点を絞ってやるといい。漠然としていると色々な話が出てしまうので、具体的にテーマを決めて情報交換会で今のような話を出して年度を通して地域毎に話し合うことがいいと思います。
高橋	<p>現在、地域での支え合いは既にできていて、そして公的なサービスもある程度整っているという現状です。支え合いで対応できなくなったらサービスというのが今の流れですが、その間に支え合いの仕組みがワンクッションあれば、地域で少しでも長く暮らすことができます。</p> <p>この部分を何かできないかなと思うところなのです。</p>
横山	実際、山の神ボランティアさんなど想像するかと思うのですが地域

で考えてくださって地域の方が地域を支えることがすごく良いと思うのですが、たぶん山の神ボランティアなども、元々地域のことをやっていた自治会などでできないことが出てきたことから、あのような仕組みを作ったのではないかと思います。

やはり移動とか通院の際に、それまでの仕組みだとなかなか病院に行くのも大変だ、タクシーだとお金がかかりすぎる、家族だって近くにいない、そのようなことがあったから、あのような形になったのかもかもしれないと思うので、今やってみてくださっているところと介護保険も100%万能ではないので、その間の部分がそれぞれの自治会での困りごとに主体は様々ですが考えていたり、暮らしのサポーターが何か住民参加型の支援が必要だよなという声もあがっているようなので、その部分について私たちがやってみてほしいというものではないのですが、各地域の方とどのように関わっていけるのか、より間の部分を埋めていけるのかということを考える必要があります。難しい問題ではあるのですが。

伊藤委員

今話された部分について私も最近深く考えております。やはり出発点は自助、互助であり隣近所の付き合い、隣近所の情報というのは一番の基本なのではないかなと思います。飛び越えて何か大きなことをやろうとしたって無理です。ここが何らかの形でしっかりしていれば、現在の山の神のような地域になっていくと思います。

自助互助が機能しないところに何か提起しても何もおこらない。ここから様々な要望や、こちらからもアイデアをおろせば良いと思います。この接点をどのように作っていけばよいのか考える必要があります。今の話であった交通手段などもシルバーでも相談があったのですが、業務中に行うとなると白タク行為となってしまいうため問題があります。

美里町全体を見ればどこでもお店があるという土地ではないので、結局農業が主体の町ですから何か買い物に行くとなれば小牛田や涌谷のヨークだとかウジエとかに行かなくてはならないですから、交通手段というものは必要だということで、ただし、そのようなことも含めて解決手段はどうあるべきかといったら、隣近所の方にそのようなことを頼めるシステムとか何かあればと思いますし、自助・互助が基本になってくるのではないかなと強く感じております。こちらから色々なアイデアを出したって、つながりが殺伐としていたら絶対に上手くいかないと思います。

民生委員の皆さんも懸命に頑張ってくれていて、大事な仕事である

	<p>し今それがなくなったら大変なことになりますが、それにプラスして生活できている高齢者の隣近所との付き合いが、ある程度しっかりしていれば、こちらからもアイデアを出しやすくなるのではないかと思います。この部分をいかに上手くやるかです。</p>
小野会長	<p>人間関係が大事ですね。これによって上手く行くところといかないところが明確に分かれてしまう。こればかりは民生委員でも行政区長でも解決できるものではないですからね。</p>
伊藤委員	<p>空き店舗など活用して、集まってお茶でも飲めるような場所づくりは全国で展開されております。県内でも角田市でシルバー人材センターが実施主体となり先日立ち上がったようです。あまり付き合いの広くない方が、どこかに行って話しをしたい場合など、そこに来てくださいという形で、そのような活動をやっているようです。美里町もそのような場所があってもいいのではないのでしょうか。どこかにいって話したいという方が大勢いると思います。一度、角田市へ見に行ってみたいものです。</p>
小野会長	<p>ただオープンしても皆が来てくれるとは限らないですからね。来る人が固定されてしまう。来てほしいなと思う人に限って来てくれない。</p>
角田委員	<p>サロンを作るにしても地理的な問題もあり、高齢になればなるほど送迎等の課題も出てきます。うちの地域でもお茶飲み会は区長や副区長が送迎を担ってくれております。他には90歳過ぎの方が運転する車に、複数人が乗り合わせで来られる方もいらっしゃいます。そのような意味では心配です。会場が団地のように起伏がないのであればよいのですが家屋の間隔が長く坂道があったりすると歩いて行くことができないことが原因で参加できないなど課題が多いので送迎を行うことで地域のお茶飲み会が成り立っております。サロンを開くのはよいのですが開催場所に集会所などを使っても来れないという方が必ず出てきます。</p>
横山	<p>今、言ってくださったような事例や課題について、どのようにしていけば解決するかというのが出発点になるような気がします。行き詰っている点について色々と考えが出てくるでしょう。</p>
小野会長	<p>高齢者でも現役で活動してらっしゃる方が多く地域になかなか出ることができない方が多くなったということも逆に地域では課題となっています。</p>
角田委員	<p>以前ならば定年で退職して、そのまま地域の担い手になるという流れが多かったが、現在はそうではない。70歳近くでも働いたり他の活動に参加されているようです。</p>

小野会長	<p>そのような時代ですから。70歳過ぎなければ地域の役員にならない。この現実はどうしたらよいのでしょうか。</p>
高橋	<p>それだけ元気な方が多いのですよね。</p>
横山	<p>地域でそれぞれが行っていることを皆でわかったり、ある地域では行政区の困りごとを解決したいと思った時に他で上手くやっているところの情報を視察したり、先生として来てもらったりして知るのも1つの手段だと思います。</p>
小野会長	<p>働いている人でも自治会とか行政区の行事に参加できるシステムをつくりたいと思っているものの、例えば地域の小さなお祭りでも皆が仕事を持っているから力仕事などの男手が足りない。仕事をしていれば休日は休養や家族サービスに時間を費やすことが多く、土曜日まで働いている方が非常に多い。そうなってくると役員もなかなか頼むことができません。</p>
角田委員	<p>ボランティアで人を募集する際のネックが負担感であるということです。例えば名前を登録していても都合の良い時に自由に参加といっても引き受けた以上は、そうはいかないだろうと無責任であると思われることなく、そうであれば引き受けないと考える方が多く、これまでも何度も断られた経験があります。</p>
永沼	<p>今、人の話も出ましたが最初に戻ると、そもそも地域の支え合いを高めるためのサービス、自治会や行政区が単位として自助の次の互助、隣近所の単位で何とかやっていることを明確にしていかなければ、今ある支え合いのほかの買い物にちょっと乗せていってとか、そんなサービスではなく近所にもなかなか頼めないといったところのサービスをもう少し煮詰めていくことができないと思います。</p> <p>先ほど小野会長からお話があったようにアンケートとかを使ってニーズを掘り下げてもいいと思います。今回、暮らしのサポーター養成講座受講者の40人程度しかアンケートをとっておりませんので、住民全体としてどのような思いでいるのかがわからない部分もあるし、地域福祉力UP情報交換会でも同じような意見も出ておりますが雪かきや買い物、移動などの課題についての声もありますが、そこまで、どのようなことをすれば課題が解決するかということまではまだ話し合いができておりません。</p> <p>その住民の皆さんの思いをもう少し聞く機会がなければいけないのかなと委員さん方の話を聞いて思ったのと、社会福祉協議会で自治会とか行政区にもっと入って行って皆さんの困りごとなどを聞いて何があれば解決できるのかということ逆を投げかけてくる。金なのか</p>

	<p>人なのか、更に一步踏み出した話をしていかなければ進まないのかなと思います。</p> <p>実際、お金が絡んで賃金的なものとかで人が入ることができれば問題は解決するのですかね。</p>
小野会長	<p>難しい問題で考えが出てこないのですが、今話したようなことを地域でも感じているのですよね。今までもこのような話をたくさんしてきましたが、なかなか解決の目途が見つからないので、去年の地域福祉力UP情報交換会で出されたような各地域の解決例などを聞くという場が必要だと思います。</p> <p>他の地域では既に課題もあるかもしれない。行政区各々が様々な悩みを持っているので解決した良い例はおそらく聞けば皆が持っているはずです。それを共有して他の地域でも真似てみるとかすれば良いと思います。</p>
佐藤副会長	<p>行政区だけでも解決できないものもあるでしょうから、その際には暮らしのサポーターの力を頼るなど関わりをもっていただくのもよろしいのかなと思います。</p>
角田委員	<p>これまで地域の課題解決の様々に関わってきましたが、民生委員の中でどこまでやればよいのかという声が多く上がってきて、次の後継者を選ぶ際に、これまでやってきたことを後任にもやっていってくださいとは言えません。</p> <p>ボランティアもそうですがお金でやるものではないですから、やっている中で喜びを見つけてやりがいを見出さなければ続くものではない。</p> <p>うちの自治会の中では家事援助は別としてゴミ出しや雪かきをやっていただけのようになったので、今の自治会の範囲にとらわれず役割を広げていければよろしいと考えております。改めて一から人材を作るとなると本当にいいのです。</p>
佐藤副会長	<p>ボランティアを持ち回りでやるわけにはいかないですからね。</p>
小野会長	<p>色々な意見が出た生活支援の仕組みですが、なかなかまとめるのが難しいのですが、ほかに意見はありませんか。</p>
伊藤	<p>正直、色々な意見や事例は簡単に出せるものではないです。現在、行政でも困っている方々に直接何かをする制度なども平成12年度から介護保険制度が開始され、今までの措置から給付として体系づけられたものになり、もちろん良い面もあるのですが、本日お話をいただいたような個人の情報などの取り扱いなどが厳しくなり、これまで出せる情報が出せなくなってしまいました。これによりこれまでの地</p>

	<p>域の関わりが希薄になってきたと考えております。介護保険制度自体が地域の繋がりや衰退の一部になっていると思います。</p> <p>もともとあった地域のつながりが、制度がしっかりしているゆえに出していた情報が出せなくなった。それが地域のつながりを断ち切ってしまう面もあるのです。</p> <p>これに核家族化で子世代などが町外に移り住んでしまうなどすると、その子世代は地域のことやわからなくなっているから、例えば施設に親が入所することは近所には内緒にしてほしいと希望し、ますます地域から離れていってしまう。行政も個人情報なので外部に情報を出すことはできない、このような状況が常態化してしまったところに、また古きよき地域のつながりをと国が言っているのですが、なかなか難しいですね。だからといって何もやらないわけにもいかない。</p> <p>ただ、あれもこれもと一度に課題解決を図っても立ちいかなくなるので、小野会長がお話ししたとおりテーマを絞るか、どこかの地域を先行して重点的に仕掛けを進めてみるとか必要なのではと思います。</p>
高橋	<p>暮らしのサポーター養成講座の際も昔の支え合いについて話し合いましたが、今からそこに戻るわけにもいかないで、これからの新しい支え合いの形を整えていかなければいけません。</p>
角田委員	<p>先日の台風で避難勧告が出されましたよね。私の家も浸水地域なので避難しましたが、個別に行政区長がまわってくれたのですよね。うちは各班長が防災の班長も兼ねるので各班長に地域の有事の際に支援が必要な方について調べていただいたとのことでした。そうすると私からは要支援者の情報を持っていても民生委員の立場として個人情報は出せないのですが、自分たちで自分の受け持っている班を独自に調べて名前を報告する分には問題は無い。これまで地震ばかりを考えて対策してきたが、ここ何年かで水害についても対策が必要となってきたため、災害をきっかけとして隣近所への意識をまとめていこうという機運が現在の私の地域にはあります。</p> <p>この地域のつながりは単に昔に戻るのではなくて、昔では考えられなかったような新たな地域のつながりの再編であり、先日の災害の思いがけない副産物となりました。結構若い方も班の中で役割を担っているため地域のきっかけを結び直す良い機会でした。</p>
小野会長	<p>そのようにうちではこのようなことをやっていて、効果があったよというような話しを、どこかの機会で行う場を作れば、だいたいどの行政区でも同じような悩みを持っていると思うのです。</p>
角田委員	<p>昔に戻れないから新しい何かで地域のつながりやきっかけを結び直</p>

	す。それが必要なのかなと思います。
横山	現在、その「つなぎ直し」と言われていることが、例えばサロンのようなものやってみようかなどと行政区でやられる地域もあたりとか、そのような企画も含め、どのような集まりの場があったら良いのかとか他の市町村では体が弱くならないように体操などの軽運動を歩いていける範囲で住民の皆さんが集まってやることで、最初はあいさつ程度だった運動仲間が徐々につながりが強くなったとか、そのような色々なつながり直しができるようになります。
小野会長	あれもこれもと詰め込んで仕掛けを考えると、結局は何もできなくなってしまいうから。誰でも来てもいいというサロンを作ったとしても来る人が変わらなければ意味が無い。
横山	そこは行政区によっても特色があるでしょうし、そのような仕掛けが必要だよねというところと、今あるもので十分だということもあるでしょうし。
佐藤副会長	行政区毎にこれから必要なサービスについて話し合う機会を持ってもらって洗い出しできるといいですね。
横山	気持ちはあるのだけれど具体的にどのようにすればよいかかわからないという地域に、例えば良い解決の方法がそれを共有しながら考えるとか、そのような感じですかね。
高橋	具体的に、このようなことが必要だよねという課題が情報交換会で出ているところもあります。その出ている中でもう一步踏み出すために何が必要かなのです。
小野会長	地域でお祭りをして行政区では子ども3人で2家族と子ども自体がないので大人が主体となってしまいます。でもやめてしまおうとつながりがなくなるために毎年行っている状況です。何かしたいと皆が思っているのですが集めるにはどうしたらいいの？という課題があります。
角田委員	うちの地域の行事では子どもはたくさんいますが子どもがないのですよ。隣の行政区の子どもたちが集まります。
田村	私の理解が間違っていたら申し訳ないですが、最初、サービスとはどのようなことという話が出ていて、もしサービスを作っていくのだとしたら法的な制度でも身近な支え合いでも「できていない」ことに刺さっていくのがサービスであるという趣旨で意見が出ていたのかと思うのですが、ではそれをどのように作っていくのかというと、柴田町のように町の社会福祉協議会などを主体として町単位で大きくやっていく方法、後は山の神のような互助的な地域内から発生してくる手

	法と大きく2つあるとすると、今の話だと大きな単位は一旦置いておいて互助的な取組を支援していくために、今後は各地域に更に入って地域課題と現在ある地域の支え合いというものを把握し、掘り起こしをしながら考えていくということによいのですかね。
小野会長	そのとおりです。
田村	皆さんのこれまでの話を聞いて思ったのは、地域の中にはキーパーソンとなる方がたくさんいるのですが、その方を支える人たちもまた必要であると思います。一人ひとり単身で頑張っていたのでは大変だし、全員がリーダーにならなくともよいから話し合いをして必要なものを見つけ出し一緒にやっていく体制を地域の中で作っていく支援が必要なのかなと思います。地域に入っていくとはそのようなことなのかなと考えています。
永沼	やらされ感でやっていくような地域の方々の活動ではなく、地域の人たちが本当にやらなくてはならないという形でやっていかなければ、町や社会福祉協議会が来ると何かやらせられると思われるのがいけないと思います。
田村	先進事例もマネっことかでは有用なのですが、それを最初からやってもらおうとして紹介すると、とてもじゃないがそこまではできません。
角田委員	あまり人数はいらないと思います。本当に2～3人で始め、あとは軌道に乗れば大きくなりますから。
高橋	山の神も最初はそんな感じだったのですよね。
永沼	最初は4～5人、移転前のウジエスーパーに1時間半かけて寒い日も暑い日も歩いて買物に行っていたお年寄りがいて、その姿を見て自分たちで何かできることはないかと考えたのが移動支援だったそうです。買物に連れていくのもですが通院がそれ以上に負担になっているということが実施の始まりで、最初は他に雪かきもあったそうです。雪かきについては協力者が腰を痛めることから1年でやめようということになったそうです。
高橋	協議会としては美里町の地域や行政区なりで、そこをどうしていくかを考えていくということだと思います。
角田委員	暮らしのサポーター養成講座の受講者の方々や民生委員あたりで地域課題について話す機会から自然発生的に始まるといいのですがね。そこに到達するまでが色々問題があるとは思いますが。
田村	一人ひとり、たぶん思っているのじゃないかな。それが寄り合って話しをして実を結ぶまでが大変です。

横山	<p>暮らしのサポーターだったりとか健康協力員とか食生活改善推進員とか、何らかの思いをもっている方は多くいるだろうなとは思いますが。その人自身がきっかけとなるだろうし、その方がキーパーソンとなった際に支える人というの必要です。</p> <p>今ある色々なものや人材も把握したり養成したりしていきながらキーパーソンができた際に、そこをカバーできるような仕組みを考えていくことが必要なのかなと思います。</p>
永沼	<p>前回から今回の協議会の間に新たに話しを聞きに行ったりしたのが老人クラブで現在の14団体も高齢者世代なので、その方々の話を聞くことも大事なことです。</p>
小野会長	<p>その老人クラブも年々団体が減ってきている。新しい人が入らない。</p>
角田委員	<p>ある程度若い60代半ばくらいの人が入ると、上が高齢者ばかりなので若い人の負担が大きすぎます。これではやってられないと入る人が少なくなるはずです。</p>
小野会長	<p>だいぶ話しも出て時間も経過しましたが、あえて本日ここでまとめる必要もないでしょう。</p>
高橋	<p>今後はきっかけを引き出すための仕掛けというか何かを考えていくということによろしいでしょうか。</p> <p>結論を今出すことは非常に難しいため、今後も丁寧に話し合っていきたいと思います。</p>
小野会長	<p>社会福祉協議会のスタッフの皆さんも更に地域に入って情報収集していただくようお願いします。</p> <p>最後に生活支援体制整備協議会啓発事業についてお願いします。</p>
高橋	<p>資料の31ページを御覧ください。</p> <p>毎年3月に行っておりました啓発事業について、今年度も日程を3月10日(火)として開催したいと考えております。また志水先生をお招きしお話しいただこうかなと思っております。</p> <p>今年度、社会福祉協議会で地域福祉力UP情報交換会を行ってきました。その中で地域のお宝を探してきたということもあったので、この報告会と一緒に行いたいと思います。先ずはこの点について皆さんに御承諾いただきたいと思いますが、よろしいですか。</p>
小野会長	<p>皆さんどうですか。</p>
佐藤副会長	<p>いつも事業の反響が大きいので続けての開催が必要であると思えますし、問題ないかと思えます。</p>
高橋	<p>委員さん方による寸劇についても昨年同様に行いたいのですが、いかがですか。寸劇自体、反響が大きく皆さんからも好評である反面、</p>

	委員の皆さんに負担をかけてしまうので、実施について率直な御意見をいただけたらと思います。
角田委員	事務局の皆さんも参加されて行うのであれば実施は構いません。
永沼	1部は基調講演として志水先生の話があって、前年度は寸劇があって、その後ライブトークとして3組程度の地域の活動者の皆さんからの発表がありました。午後1時30分から開会して概ね4時くらいまでの2時間30分、基調講演が40～50分、寸劇が昨年度は10分の予定が20分くらいかかっています。ライブトークで地域の皆さんの活動の話をもう少し長くとるのであれば、今年度は寸劇自体を行わないでということもいいのかなと思います。
小野会長	あの寸劇も効果としてはどうなのでしょう。
永沼	伝えたいことは一目瞭然でテーマに沿った劇をして皆さんに知ってもらうという狙いとしては効果的であるとは思いますが。
小野会長	ライブトークについて、今年度は何組くらいを予定しどのようなことを話してもらうかなどのプランは既にあるのですか。
高橋	多くても3組として予定し具体的なプランはまだです。
永沼	1組が単身で発表するのではなく複数人で登壇して話すので、どうしても時間が長くなる傾向にはなります。
永沼	この件に関しては志水先生とも相談させてもらってもよろしいでしょうか。
高橋	それでは寸劇に関してはこの場では保留ということにして、もし実施するにしても短時間で簡潔に行う方向で調整してみます。 タイトルについても皆さんに御相談したかったのですが時間も過ぎてしまったので事務局に調整させていただいてもよろしいでしょうか。
	(問題ないとの声)
小野会長	次の協議会の日程としてはいつを予定していますか。
高橋	次回は昨年と同様に啓発事業当日の3月10日(火)の午前中に開催したいと考えております。
小野会長	その前に話し合いはやらなくても大丈夫ですか。
高橋	もしできるなら話し合いの日程が取れると良いとは考えております。
永沼	この協議会については年間4回開催の予定で進めてまいりましたが、もしよろしければ1月中にでも協議会又は打合せという形での集まる機会を設定させていただいてもよろしいでしょうか。

	(賛成の声)
永沼	それでは1月中旬から下旬にかけて日程調整させていただきたいと思います。
	終了：11時56分

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和2年 月 日

委員 _____

委員 _____